

2026 年度(令和 8 年度)学校評価自己評価表

4/13(月)修正

大門中学校区

校番 39

福山市立 旭丘小 学校

最終更新日

2026年(令和 8年)4月1日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標設定が現状より高い内容や数値が見られる。先生方は頑張っているので、次年度は、目標達成ができるように内容等を検討してもらいたい。 ・次年度はCSになるので、今後いっそう地域連携を図りながら教育活動を行ってほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力・表現力に課題がある。 ・自己有用感が低く、他者理解の醸成が十分にできていない。 ・スマホやゲームなどを長時間利用したり、家庭学習の習慣が定着できにくかったりする状況がある。 ・ボランティア活動に積極的に参加している児童生徒と、参加が難しい児童生徒の二極化が見られる。 	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>主体性 表現力 協働性</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身につけた生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着と主体的に表現できる授業を創る。 ・生徒指導の実践上の4つの視点(自己存在の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成)を生かした指導を進める。 ・メディア(ゲーム、インターネット、スマートフォン等)の利用の仕方を振り返り、授業につながる家庭学習の充実に向けた取組を進める。 ・学校における働き方改革を進める。
---	--	--	---

育成する資質・能力	主体性	表現力	協働性
めざす子ども像	1・2年 自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えをもち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	身近な人に温かい心で接している。
	3・4年 集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えをもち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	相手の気持ちを考え、行動している。
	5・6年 集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標をもち、自分から行動している。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えをもち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。

III 自校

学校教育目標
自ら考え 共に輝く

現状
<p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分はまわりから認められている」児童 79.7% ・「休憩時間に身体を動かして遊んでいる」児童 69.8% ・平日1日当たりのゲーム・スマホ等の使用時間が1時間未満の児童 31.4% <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科における単元末評価テスト[知識・技能] 82.2点、[思考・判断・表現] 67.9点。 ・授業力の向上を目指し、教材研究日、指導の工夫についての交流会をそれぞれ週1回程度実施している。 ・基礎基本の学力の定着のために、帯タイム(10分)を週5回実施。家庭学習の内容、取り組み方について、授業づくりにつながるよう定期的に見直し・充実を図っている。

研究	テーマ	研究主題「主体的に学び、表現力を高める授業づくり」～「課題発見・解決する学習過程」、「他者との協働の場」を工夫することを通して～」
	内容等	<p>算数科・特別の教科道徳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分散学習の考え方を取り入れた単元全体の学習計画に基づいた授業展開を工夫する。 ・児童の主体的なかかわり合いを引き出し、自分の考えを持たせ、表現する場を設定する。 ・「振り返り活動」を充実させる。
めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> ・児童が「解決したい」と思える授業 ・児童が「学びが楽しい」と思える授業 ・児童が「力がついた」と実感できる授業

福山市立 旭丘小 学校

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 旭丘小 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
7	基礎基本の学力を定着させ、表現力を高める。	★	継続	各学年における基礎基本の定着を図る。	・研究主題に沿った算数科の授業改善に取り組む。 ・児童会主体のメディアコントロールの取組を計画的、継続的に実施する。	・算数科学期末評価テスト80点以上6割。 ・「4月と比べ家庭学習の時間が増えた」を22%以上にする。【保護者アンケート】								
4	自他を認め合い、自分で考え、よりよい行動が選択できる。		継続	自分で判断して実行する力(自己指導能力)を育成する。	自己のよさ・頑張りが集団内で適切に評価されるよう特別活動の充実を図る。	自分まわりの人の役に立っていると実感できる児童の割合80%以上。【児童アンケート】								
3	運動に親しみ、主体的に体力を向上させる。		継続	運動に親しみ、体力向上のための自己目標をもち取り組む児童を育成する。	身体を動かすことの楽しさ、おもしろさが実感できる授業・各種取組を実施する。	休憩時間に身体を動かして遊ぶ児童の割合70%以上。【児童アンケート】								
4	保護者・地域から信頼される地域とともにある学校をつくる。		継続	地域とつながり、保護者からの満足度の高い教育活動を進める。	地域のよさを生かした学びを創造し、児童の成長が伝わる情報発信をする。	学校の教育活動は児童の成長につながっていると実感している保護者の割合90%以上。【保護者アンケート】								
4	働き方改革の意義を理解し、教育の質の向上を図る。	★	継続	業務内容を精選しながら質を高め業務を遂行するとともに、教職員の強みを生かした取組を進める。	児童主体の授業の実現に向け、授業改善を進める。	授業改善が児童の成長につながっていると実感できる教職員の割合90%以上。【教職員アンケート】								

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	評価基準
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。